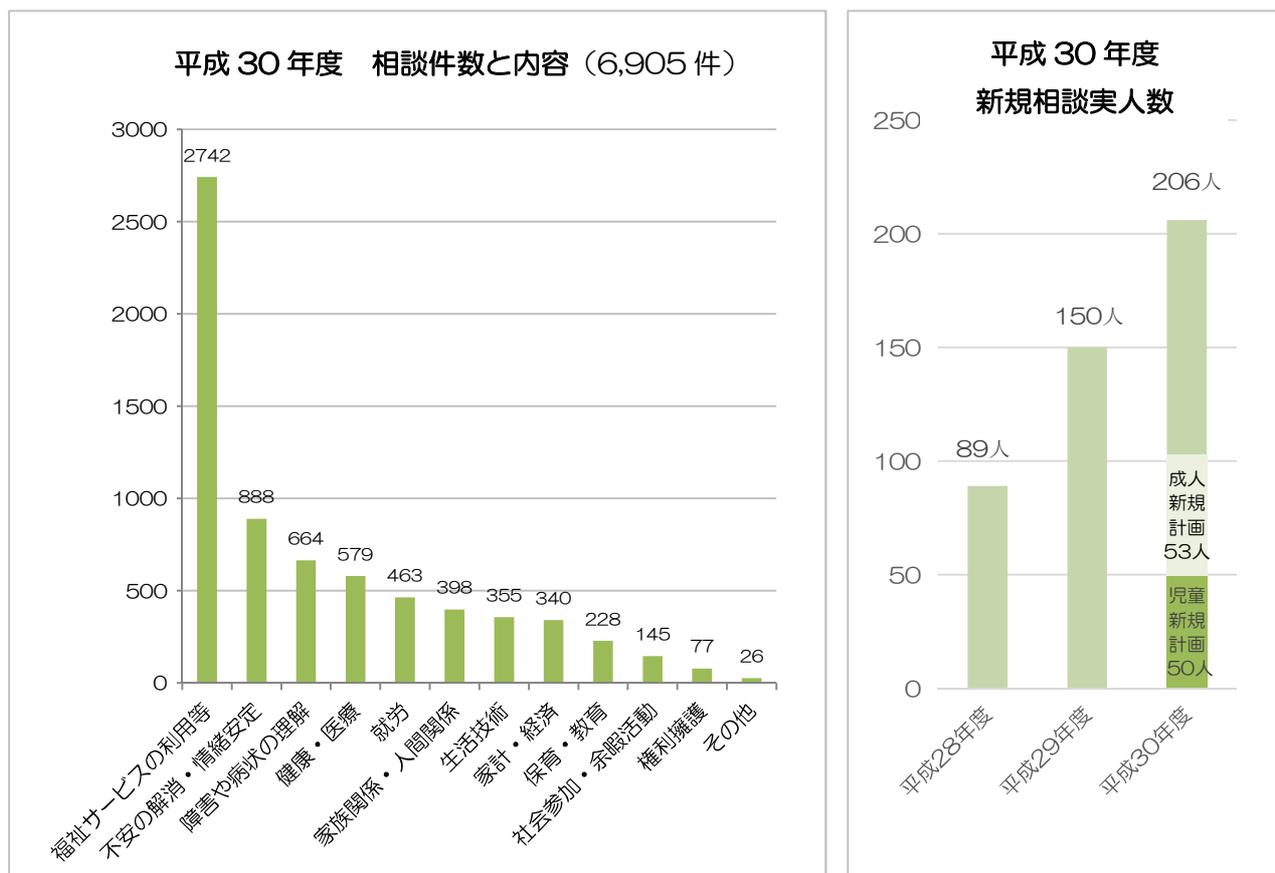
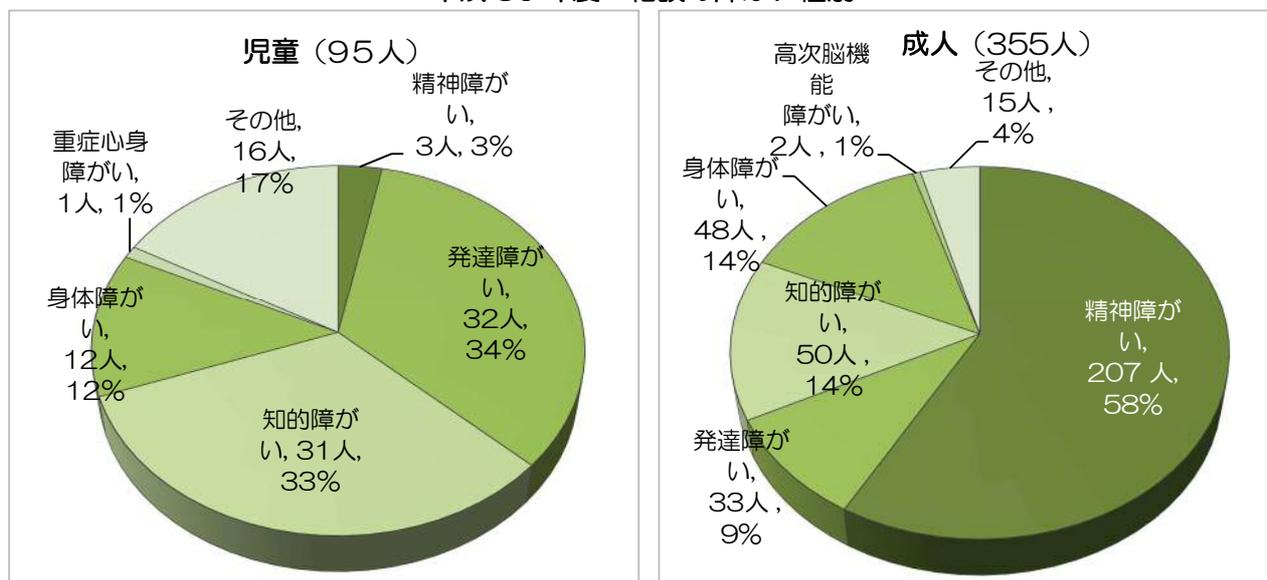


平成 30 年度 障がい者相談支援事業所 報告

(西地域) (旧) 芦屋ハートフル福祉公社、芦屋市社会福祉協議会
 (東地区) 三田谷治療教育院、芦屋メンタルサポートセンター



平成 30 年度 相談の障がい種別



平成 30 年度 実施計画のふり返り

①一般相談員の資質向上

- ・研修や連絡会への参加により、知識の向上に努めた。他機関の職員と顔が見える関係性になることで、連携がしやすくなった。
- ・基幹相談に、一般相談の経験がある相談員を3名配置。基幹相談から、日常的に手厚い後方支援を受けながら、ケース対応ができた。

課題

- ・児童、成人 それぞれの3障がいに加え、発達障がいの相談も増えており、総合力が問われる。
- ・ケース対応の積み上げでしか、対応力を付けられない。

②障がい者の居場所の活用

- ・既存の地域資源を活用した。
- ・新たに開設された 事業所や居場所を案内した。

今後

- ・ニーズに適した資源を案内するために、資源の特色を十分に把握しながら、案内を継続していく。

③発達障がいの理解とケース実践

- ・発達障がいと二次障害に対する理解を深め、本人や保護者との関わりに生かした。
- ・発達障害者支援センタークローバーとの連携強化のため、連絡会議を隔月で実施したことで、困難ケースの早期共有が可能となった。
- ・不登校や引きこもりケースへの対応力をつけるため、見立てや見極めを相談員内で共有した。

課題

- ・本人の気持ちが醸成されるタイミングと、提案する資源の内容がマッチしていなければ、ケースが進展しない。
- ・他機関と連携し、本人に負担のないアプローチを探す必要がある。

令和元年度 実施計画

① 一般相談員の資質向上

- ・ ケースの共有、検討の中から見立てや対応の概念化をし、他のケースに応用する力量をつける。

② 関係機関との連携強化

- ・ 引きこもりのケース、不登校のケースなど関係機関との具体的な連携方法を明確にする。
- ・ 対応方法（見立てや情報の取り方、本人に負担のないアプローチ、家族の不安の取り方）を学び実践していく。

③ 支援の仕組みの課題を抽出する

- ・ 利用者本位の視点で、より良い支援をするための仕組みや連携方法を見直し、課題を抽出していく。